

しんかんきょう

公益社団法人神奈川県環境保全協議会

2017. 4
第 139 号
(総会特別号)



写真 (木村尚氏提供)

- 本号には総会議案の一部を掲載しました！
総会当日にご持参ください。

- 総会に続く記念講演会！

「甦れ！ 神奈川の水 東京湾の魅力」

～アマモ場再生がつなく海と人、人と人～

NPO法人海辺つくり研究会 理事

木村 尚 氏



会報 しんかんきょう も く じ

平成29年 4 月 No.139（総会特別号）

1	第5回定時総会のご案内	
(1)	第5回定時総会次第	1
(2)	第1号議案 平成28年度事業報告について	2
(3)	第2号議案 平成28年度収支決算報告について	7
(4)	第3号議案 「公益社団法人 神奈川県環境保全協議会役員等の報酬等に関する規程」の改訂について	10
(5)	第4号議案 役員の選任について	11
	協議会事務局	
2	法令・行政の動向	
	微小粒子状物質（PM2.5）に関する研究について	12
	神奈川県環境農政局環境部環境科学センター	
3	新技術紹介	
36	廃棄物に新しい価値を付加する、反応熱を利用した発電技術「IONIC POWER GENERATION」	14
	ミヤマ株式会社	
4	平成28年度環境保全視察研究会に参加して	16
	東ソー(株) 東京研究センター 新妻更太郎	
5	企業訪問「お元気ですか？」	17
28	大東力カオ(株) 中井工場	
	協議会事務局 山崎 美紀	
6	協議会の活動状況	18
	協議会事務局	
7	平成29年度公益社団法人神奈川県環境保全協議会環境保全表彰	19
	協議会事務局	
8	お国自慢・事務局だより	20

第5回定時総会のご案内

第5回定時総会次第

- 開催日程：平成29年5月19日（金）
- 開催場所：県民共済みらいホール（ランドマーク横）

○ 第1部 第5回定時総会 (14:00～15:00)

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 来賓祝辞
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人選出
- 6 議事

(1) 審議事項

- 第1号議案 平成28年度事業報告について
- 第2号議案 平成28年度収支決算報告について
平成28年度会計監査報告
- 第3号議案 「公益社団法人 神奈川県環境保全協議会役員等の報酬等に関する規程」
の改訂について
- 第4号議案 役員の選任について

(2) 報告事項

- 報告1 平成29年度事業計画について
- 報告2 平成29年度収支予算について
- 7 閉会のことば

○ 第2部 環境保全表彰 (15:15～15:30)

○ 第3部 記念講演 (15:45～16:45)

- 講師 木村 尚 氏 (NPO法人 海づくり研究会理事)
- 演題 「甦れ! 神奈川の手 東京湾の魅力」
～ アマモ場再生がつなぐ海と人、人と人 ～



○ 第4部 レセプション (17:15～18:45) [6階 ヴァランセ]

議案資料

- 第1号議案 平成28年度事業報告について
- 第2号議案 平成28年度収支決算報告について
- 第3号議案 「公益社団法人 神奈川県環境保全協議会役員等の報酬等に関する規程」の改訂について
- 第4号議案 役員の選任について

第 1 号議案 平成28年度事業報告について

凡例： 公益目的事業 ☐ その他事業（共益事業） ☐ 公益・共益が混在（会報） ☐

事 業 名 等	実 施 内 容
総 会	
公益社団法人神奈川県環境保全協議会 第 4 回定時総会 平成28年5月27日(金) 場 所：県民共済みなとみらいホール	(1) 総会議事 (2) 平成28年度（公社）神奈川県環境保全協議会環境保全表彰 8 事業所・個人が受賞 (3) 記念講演「環境トップ企業への道 ―国際的感覚と日本流―」 一般財団法人 持続性推進機構 理事長 安井 至 氏 <参加者：113名> (会員83名・非会員30名)
会 議	
1 理事会 第 1 回通常理事会 平成28年 5 月27日(金) 場 所：県民共済みなとみらいホール	(1) 平成27年度事業報告について (2) 平成27年度収支決算報告について
第 1 回臨時理事会 平成28年 5 月27日(金) 場 所：県民共済みなとみらいホール	会長・副会長の選任について
第 2 回臨時理事会 平成28年11月30日(水) 場 所：株式会社岡村製作所追浜事業所	審議事項 (1) 平成28年度事業の進捗状況報告と事業予定案について (2) 新入会員の承認と役員の一部変更について (3) 第 5 回定時総会及び記念講演の開催案について (4) その他 報告事項 (1) 平成28年度の（公社）環境保全協議会会員の表彰状況 (2) その他
第 2 回通常理事会 平成29年 3 月13日(月) 場 所：万国橋会議センター	(1) 平成28年度事業結果報告案及び収支決算報告案について (2) 平成29年度事業計画案及び収支予算案について (3) 平成29年度環境保全表彰（会長表彰）について ほか
2 総務委員会 第 1 回 平成28年11月30日(水) 場 所：株式会社岡村製作所追浜事業所	(1) 第 2 回臨時理事会の開催について (2) その他
第 2 回 平成29年 3 月13日(月) 場 所：万国橋会議センター	(1) 平成29年度環境保全表彰等被表彰者の選考について (2) 平成28年度第 2 回通常理事会及び第 5 回定時総会開催について (3) その他
3 企画教育委員会 第 1 回 平成28年10月12日(水) 場 所：横浜市開港記念会館	(1) 平成28年度の教育事業進捗状況及び事業予定について ア 平成28年度事業の実施状況 イ 平成28年度事業の今後の予定について (ア) 地区研修会 (イ) 自主事業 (2) 平成29年度以降の事業計画について (ア) 平成29年度事業計画案について (イ) 第 5 回定時総会と記念講演の開催案 (3) その他
第 2 回 平成29年 3 月 1 日(水) 場 所：横浜市開港記念会館	(1) 平成28年度事業実施状況について (2) 平成29年度事業計画案について

事業名等	実施内容
4 広報委員会 第1回 平成28年6月21日(火) 場所：波止場会館	(1) 会報“しんかんきょう137号”(2016年8月号)の発行について (2) 今後の会報“しんかんきょう”発行計画について (3) ホームページ広報について
第2回 平成28年11月25日(金) 場所：三菱樹脂(株)平塚工場	(1) 会報“しんかんきょう138号”(2017年新年号)の発行について (2) 会報139号(2017年4月総会特別号)の発行計画等について (3) ホームページ広報について
5 地区部会等 (1) 地区部会の役員会議(4地区) ○ 県央地区 平成29年2月7日(火) ○ 横須賀鎌倉地区 平成29年2月9日(木) ○ 県西地区 平成29年2月10日(金) ○ 湘南地区 平成29年2月17日(金)	(1) 平成29年度事業計画について (2) 会長表彰、県政総合センター所長表彰等候補者の推薦 ほか
(2) 大和・綾瀬分会 理事会 4回開催 研修会 1回開催(8月25日)	(1) 平成29年度事業計画等について (2) 環境課題に関する情報共有など
会計監査	
会計監査 平成28年4月15日(金) 場所：開港記念会館	監事：吉田 剛 氏、根本敏子 氏
研修会事業	
1 ISO内部環境監査員養成研修会 (1) 平成28年6月14日～15日(2日間) 会場：万国橋会議センター ＊受講者：29名(募集40名) (会員29名)	講師：山岡憲一 氏、石川憲男 氏、坂山幸平 氏、金子 勇 氏 (1) 環境側面について (2) ISO14001要求事項の概要と内部監査のポイント (3) 環境法規 (4) 内部監査の進め方 (5) 演習(現場監査の実際・整合性監査・システム監査) (6) 研修効果(テスト)確認
(2) 出前講座 1) ISO14001：2015年規格概要の解説 平成28年5月25日(水) 会場：レンブラントホテル厚木 ＊厚木地区廃棄物対策協議会会員	講師：山下知子 氏(環境保全アドバイザー) 講演内容：ISO14001:2015改訂について
2) 管理者向け環境教育セミナー 平成28年7月1日(金) 会場：TOTO(株)茅ヶ崎工場	講師：山下知子 氏(環境保全アドバイザー) 講演内容：ISO14001(2015年版)の規格改正の経緯とその概要
3) ISO14001内部環境監査委員 ブラッシュアップ研修会 平成28年8月30日(火) 会場：(株)神戸製鋼所藤沢事業所	講師：山下知子 氏、川口正人 氏(環境保全アドバイザー)、 樋口勇一郎 氏(株)日立アーバンインベストメント) 研修内容：環境法令改正(最近の関連法規等) ISO14001規格解説 内部監査について(重点を置いた教育等) 演習(模範監査)
4) ISO14001規格改正の解説 (管理職向け) 平成28年9月13日(火) 会場：日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所	講師：山下知子 氏(環境保全アドバイザー) 講演内容：ISO14001(2015年版)の規格改正の経緯と概要、 管理者の役割と有効なマネジメントシステムの構築について

事業名等	実施内容
5) ISO14001内部環境監査員及び管理職向けISO140012015版改正研修会 平成28年10月4日(火) 会場：日立オートモティブシステムズ㈱相模事業所	講師：山下知子 氏 (環境保全アドバイザー) 講演内容： ＜第一部＞ISO14001 (2015年版) の規格改正の経緯と概要、管理者の役割と有効なマネジメントシステムの構築について ＜第二部＞ISO14001 (2015年版) における内部監査のポイントについて解説及び演習
6) 初級者向け環境教育研修会 (ISO14001関係) 平成28年10月13日(木) 会場：㈱神戸製鋼所藤沢事業所	講師：山下知子 氏、川口正人 氏 (環境保全アドバイザー)、樋口勇一郎 氏 (㈱日立アーバンインベストメント) 研修内容：法を守ることとは 最近の環境問題と企業の取り組み 演習 (業務と環境の係わり、グループディスカッション、まとめ及び発表、講評)
7) ISO14001規格改正の解説 (管理職向け) 平成28年11月7日(月) 会場：田中貴金属工業㈱湘南工場	講師：山下知子 氏 (環境保全アドバイザー) 講演内容：ISO14001 (2015年版) の規格改正の経緯と概要、管理者の役割と有効なマネジメントシステムの構築について
8) ISO14001内部環境監査員養成研修会 平成29年2月8日(水) 会場：高砂香料工業㈱平塚工場	講師：山下知子 氏 (環境保全アドバイザー)、樋口勇一郎 氏 (㈱日立アーバンインベストメント) 研修内容：ISO14001:2015規格解説、環境関連法規概論、内部環境監査方法及び演習
9) ISO14001内部環境監査員養成研修会 平成29年2月15日(水) 会場：日産車体㈱	講師：山下知子 氏 (環境保全アドバイザー)、神田英治 氏 (環境保全アドバイザー) 研修内容：ISO14001:2015規格解説、環境関連法規概論、内部環境監査方法及び演習
10) ISO14001内部環境監査員2015年版移行研修会 平成29年2月20日(月)及び28日(火) 会場：田中貴金属工業㈱湘南工場	講師：山下知子 氏 (環境保全アドバイザー) 研修内容：ISO14001:2015規格解説、内部監査の在り方及び演習
11) 2016環境報告書記載内容に関する第三者意見 平成28年9月6日(火) 会場：三菱樹脂㈱平塚工場	講師：宮尾公教 氏 (環境保全アドバイザー) 内容：「2016環境報告書」の記載内容に関するご意見及び今後の環境活動に向けたアドバイス
2 公害防止管理者等フォローアップ研修会 (1) 前期 平成28年6月24日(金) 会場：万国橋会議センター * 受講者：81名 (募集80名) (会員63名・非会員18名)	(1) 平成27年度後期分 (10月～3月) の主な環境法令改正の状況 講師：環境保全アドバイザー 宮尾公教 氏 (2) 大気水質・廃棄物行政からの最近の法令動向等説明 講師：神奈川県大気水質課職員 小島公平 氏 講師：川崎市環境局廃棄物指導課職員 入江真久 氏 (3) 公害防止等の基礎知識の再確認 講師：学術博士 田所正晴 氏 (4) 取り組み事例紹介 講師：日産自動車㈱追浜工場 大森敬司 氏
(2) 後期 平成28年11月22日(火) 会場：日産自動車株式会社 グローバル本社 日産GHQホール * 受講者：約119名 (募集150名) (会員60名・非会員59名)	(1) 平成28年度前期分 (4月～9月) の主な環境法令改正の状況 講師：菱栄テクニカ株式会社 石川憲男 氏 (2) 騒音・振動・低周波音の関連情報 講師：神奈川県環境科学センター職員 横島潤紀 氏 (3) PCB特別措置法の改正について 講師：神奈川県資源循環推進課職員 細谷沙織 氏 (4) 公害防止組織による環境管理のあり方 講師：神奈川県大気水質課 課長 加藤 洋 氏

事業名等	実施内容
	(5) 日産自動車株式会社追浜工場の環境保全活動と統括管理者の役割 講師：日産自動車株式会社 追浜工場 工場長 高橋 徹 氏 (6) 富士フイルムが考案したリスクアセスメント手法と実践事例 講師：富士フイルム株式会社神奈川工場環境安全グループ 統括マネージャー 阿部 誠 氏 課長 坂田 純 氏
3 女性担当者のための環境保全研修会 (1) 第1回：「排出事業者責任とリスク」 平成28年6月17日(金) 会場：株式会社旭商会 *受講者：25名(募集30名) (会員22名・非会員3名)	講師：市川公豪、松下 氏(旭商会)、結城とも子 氏 山下知子 氏(環境保全アドバイザー) 研修内容： はじめまして！ こんなときどうする？ - リコーグループの廃棄物処理業者監査 - 環境法を知る！ - 最近の不適正事例にみる排出者責任とは -
(2) 第2回：「環境管理とマネジメントシステム」 平成28年11月18日(金) 会場：日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所 *受講者：22名(募集30名) (会員21、非会員1)	講師：井上孝芳 氏、福田由美 氏(日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所) 山下知子 氏(環境保全アドバイザー) 研修内容： はじめまして！ - 日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所(概要説明、環境の取組み、施設見学) - こんな時どうする？ - 日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所の取組み事例 - 環境法を知る！ - 公害防止の取組みについて -
4 ISO14001・2015移行対応研修会 - ISO14001ブラッシュアップ研修会の一環事業 - 平成28年10月14日(金) 会場：波止場会館 *受講者：51名(募集70名) (会員45名、非会員6名)	講師：庚塚峻夫 氏(協議会 環境保全アドバイザー) 大野一博 氏(株)日立製作所ICT事業統括本部) 研修内容： ISO14001:2015改正のポイントと対応について ISO14001:2015移行の取組みと統合認証への対応について
5 平成28年度環境実務後継者育成講座 平成29年1月24日(火) 会場：万国橋会議センター *受講者：35名(募集50名) (会員29名、非会員6名)	講師：青山尚巳 氏(前 環境保全協議会事務局長) 塩谷映雄 氏(現環境保全協議会事務局長) 渡辺一法 氏(前産業廃棄物協会専務理事) 山下知子 氏(環境保全アドバイザー) 研修内容： 環境法令の全体像の理解と環境法令の読み方 公害関係法令の規制概要と事業者の責務等について 廃棄物処理の基礎知識について 環境管理の重要性和管理のあり方について
6 生物多様性と企業との関わりに関する研修会 平成28年9月13日(火) 会場：横浜ゴム(株)平塚製造所 *受講者：37名(募集40名) (会員15名、非会員22名)	講師：保坂千余子 氏(県自然環境保全課) 天谷敏夫 氏(東芝ライテック(株)) 吉浦一徳 氏(横浜ゴム(株)平塚製造所) (1) かながわ生物多様性計画について (2) 東芝ライテック(株)における生物多様性保全への取組み (3) 横浜ゴム(株)の生物多様性を含めた環境保全活動 (4) 横浜ゴム(株)平塚製造所の敷地内見学

事業名等	実施内容
7 地区研修会（会員対象事業）	
(1) 湘南地区研修会 平成28年9月21日(水) 会 場：株式会社明治神奈川工場 * 参加者：26名（募集40名）	(1) 湘南地域における環境の現状と課題について 神奈川県湘南地域県政総合センター 長沼 環境保全課長 (2) 株式会社明治神奈川工場の概要説明及び環境の取組み (3) 施設見学
(2) 県央地区研修会 平成28年10月7日(金) 会 場：日本航空㈱メンテナンスセンター * 参加者：28名（募集40名）	(1) 県央地域における環境の現状と課題について 神奈川県県央地域県政総合センター 加藤 環境保全課長 (2) JAL整備工場の概要説明及び環境の取組み (3) 施設見学
(3) 横須賀鎌倉・県西地区合同研修会 平成28年10月21日(金) 会 場：キリンビール㈱横浜工場 * 参加者：27名（募集40名）	(1) キリンビール横浜工場の概要説明及び環境の取組み (2) 地域における環境の現状と課題について 神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター 工藤 環境保全課長 (3) 施設見学
調査・支援事業	
1 環境保全視察研究会 平成29年2月24日(金) * 参加者：23名（募集25名）	目 的 関連事業所の施設と環境保全の取組みの視察 視察先 ㈱リコー環境事業開発センター及び柿田川湧水群
2 環境保全アドバイザー コンサルティング事業 （出前講座の一部再掲） * 派遣実績：13件	環境保全アドバイザー登録状況：18名 ISO内部環境監査員養成研修会等への派遣状況 (1) 2015年版内部監査員養成研修会 2件（延べ2名） (2) 内部監査員ブラッシュアップ研修 1件（延べ2名） (3) ISO14001初級者向け研修 1件（延べ2名） (4) ISO14001:2015年規格改正についての解説及び管理者向け研修 6件（延べ6名） (5) 環境報告書に対する第3者意見 1件（1名） (6) 産業廃棄物協会主体研修会 2件（延べ2名）
3 会報の発行	会報「しんかんきょう」の発行 年3回：136号（4月総会特別号）、137号（8月）、138号（1月）
4 情報提供（HP、メール速報）	環境法令改正トレンドを毎月、行政情報など随時発信
5 印刷物の発行頒布	指定事業所表示板の頒布
6 環境保全表彰	
(1) 環境保全表彰式（5/27）	平成28年度環境保全表彰被表彰者の表彰（8事業所・個人を表彰）
(2) 環境保全表彰選考会議（3/13）	平成29年度環境保全表彰被表彰者の選考
連携事業	
1 環境保全被表彰者の推薦 (1) 県政総合センター所長表彰	
[横須賀鎌倉地区]	受賞者：菱栄テクニカ株式会社 【廃棄物等の発生抑制・再使用・再生利用活動推進功労】
[湘南地区]	受賞者：株式会社荏原製作所 藤沢事業所 【大気・水・土壌環境保全功労】
[県西地区]	受賞者：大東力カオ株式会社 中井工場 【大気・水・土壌環境保全功労】
(2) 県環境保全（大気・水・土壌関係） 功労者表彰（知事表彰）	受賞者： エムケーチーズ株式会社 三菱電機株式会社 鎌倉製作所
(3) 県環境整備功労者表彰（知事表彰）	受賞者：住友重機械工業株式会社 横須賀製造所

第2号議案 平成28年度収支決算報告について

正味財産増減計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	10,260,000	10,750,000	490,000
正会員受取会費収入	9,990,000	10,475,000	485,000
賛助会員受取会費収入	270,000	275,000	5,000
事業収益	3,058,877	3,080,430	21,553
環境保全講習会事業収入	2,568,900	2,534,600	34,300
表示板等頒布事業収入	149,977	205,830	55,853
広告料収入	340,000	340,000	0
受取補助金等	0	0	0
受取県事業受託収入	0	0	0
受取負担金	309,000	318,000	9,000
負担金収入	309,000	318,000	9,000
雑収益	18,399	26,850	8,451
受取利息	1,629	7,004	5,375
雑収入	16,770	19,846	3,076
経常収益計	13,646,276	14,175,280	529,004
(2) 経常費用			
事業費			
役員報酬	2,741,000	2,741,000	0
給料手当	4,742,449	4,575,958	166,491
退職給付費用	360,000	360,000	0
法定福利費	2,665,237	2,555,229	110,008
福利厚生費	140,644	150,096	9,452
旅費交通費	193,333	184,420	8,913
通信運搬費	359,706	468,295	108,589
会議費	621,553	633,727	12,174
消耗什器備品費	0	0	0
消耗品費	324,369	438,921	114,552
印刷製本費	1,193,442	1,232,007	38,565
光熱水料費	33,527	47,517	13,990
賃借料	237,699	237,699	0
諸謝金	631,000	558,648	72,352
租税公課	2,300	1,700	600
支払負担金	19,216	19,216	0
雑費	22,624	49,376	26,752
事業費計	14,288,099	14,253,809	34,290
経常費用計	14,288,099	14,253,809	34,290
評価損益等調整前当期経常増減額	641,823	78,529	563,294
当期経常増減額	641,823	78,529	563,294
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
その他経常外収益			0
退職給付引当金取崩額	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前期当期一般正味財産増減額	641,823	78,529	563,294
当期一般正味財産増減額	641,823	78,529	563,294
一般正味財産期首残高	3,155,514	3,234,043	78,529
一般正味財産期末残高	2,513,691	3,155,514	641,823
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,513,691	3,155,514	641,823

正味財産増減計算書内訳表
平成28年4月1日から平成29年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計 共 益	法人会計 管 理	内部引去消去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取会費	6,669,000	1,026,000	2,565,000	0	10,260,000
正会員受取会費収入	6,493,500	999,000	2,497,500	0	9,990,000
賛助会員受取会費収入	175,500	27,000	67,500	0	270,000
事業収益	2,581,500	477,377	0	0	3,058,877
環境保全講習会事業収入	2,343,500	225,400	0	0	2,568,900
表示板等頒布事業収入	0	149,977	0	0	149,977
広告料収入	238,000	102,000	0	0	340,000
受取補助金等	0	0	0	0	0
受取県事業受託収入	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	309,000	0	309,000
負担金収入	0	0	309,000	0	309,000
雑収益	0	0	18,399	0	18,399
受取利息	0	0	1,629	0	1,629
雑収入	0	0	16,770	0	16,770
経常収益計	9,250,500	1,503,377	2,892,399	0	13,646,276
(2) 経常費用					
事業費					0
役員報酬	2,028,340	274,100	438,560	0	2,741,000
給料手当	3,509,412	474,244	758,793	0	4,742,449
退職給付費用	0	0	360,000	0	360,000
法定福利費	1,972,275	266,524	426,438	0	2,665,237
福利厚生費	0	123,874	16,770	0	140,644
旅費交通費	61,053	126,980	5,300	0	193,333
通信運搬費	207,440	45,562	106,704	0	359,706
会議費	124,986	114,868	381,699	0	621,553
消耗什器備品費	0	0	0	0	0
消耗品費	237,207	13,113	74,049	0	324,369
印刷製本費	884,169	279,009	30,264	0	1,193,442
光熱水料費	0	0	33,527	0	33,527
賃借料	131,879	0	105,820	0	237,699
諸謝金	580,000	1,000	50,000	0	631,000
租税公課	0	0	2,300	0	2,300
支払負担金	0	5,216	14,000	0	19,216
雑費	17,938	3,484	1,202	0	22,624
事業費計	9,754,699	1,727,974	2,805,426	0	14,288,099
経常費用計	9,754,699	1,727,974	2,805,426	0	14,288,099
評価損益等調整前当期経常増減額	504,199	224,597	86,973	0	641,823
当期経常増減額	504,199	224,597	86,973	0	641,823
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
その他経常外収益					
退職給付引当金取崩額	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
税引前期当期一般正味財産増減額	504,199	224,597	86,973	0	641,823
当期一般正味財産増減額	504,199	224,597	86,973	0	641,823
一般正味財産期首残高					3,155,514
一般正味財産期末残高					2,513,691
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額					0
指定正味財産期首残高					0
指定正味財産期末残高					0
III 正味財産期末残高					2,513,691

貸 借 対 照 表

平成29年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	2,520,862	3,235,343	714,481
未収会費	90,000	0	90,000
未収金	5,510	19,600	14,090
前払金	101,092	101,092	0
流動資産合計	2,717,464	3,356,035	△ 638,571
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	6,355,936	5,995,936	360,000
事務所移転経費引当資産	3,180,000	3,170,000	10,000
(3) その他固定資産			
保証金	0	0	0
固定資産合計	9,535,936	9,165,936	370,000
資 産 合 計	12,253,400	12,521,971	△ 268,571
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	7,811	10,837	3,026
預り金	185,578	181,425	4,153
流動負債合計	193,389	192,262	1,127
2. 固定負債			
退職給付引当金	6,355,936	5,995,936	360,000
固定負債合計	6,355,936	5,995,936	360,000
負 債 合 計	6,549,325	6,188,198	361,127
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	5,704,075	6,333,773	△ 629,698
正 味 財 産 合 計	5,704,075	6,333,773	△ 629,698
負債及び正味財産合計	12,253,400	12,521,971	△ 268,571

第3号議案 「公益社団法人 神奈川県環境保全協議会 役員等の報酬等に関する規程」の改訂について

1 改訂の必要性等について

「常務理事の報酬額」は、「定款第28条第2項」及び「公益社団法人 神奈川県環境保全協議会役員等の報酬等に関する規程（以下「報酬規程」という。）第4条」で定めているが、両規定に一部相違があることから、現状に即した見直しを行う。

2 内容の相違と改訂の方法

(1) 内容の相違

定款では、「常務理事の報酬額は、総会において定める年間総支給額の範囲内で、この法人の財政状況及び神奈川県の再任用職員の報酬額を考慮して決める額とする。」としている一方で、報酬規程では、「神奈川県再任用職員に適用する行政職給料表⁽¹⁾の給料表に準ずるものとする。」としており、定款と報酬規程の報酬額に差異が生じている。

(2) 改訂の方法

常務理事の報酬額は、定款の規定を受けて、総会の議決額を前提とした報酬額としていることから、報酬規程の同規定箇所を削除する改訂を行う。

3 報酬規程の改訂内容

- (1) 「公益社団法人 神奈川県環境保全協議会役員等の報酬等に関する規程」第4条の規定を削除する。
- (2) 第4条の削除に伴い、第5条を第4条とし、以下、第6条から第8条までを順次繰り下げる。
- (3) 附則で定める施行時期を総会議決日とする。

4 改訂後の報酬規程

公益社団法人神奈川県環境保全協議会役員等の報酬等に関する規程（改訂後）

第1条～第3条 （略）

第4条 常務理事に、月額報酬を支給するときは、本協議会職員の例により通勤手当を支給する。

第5条 常務理事が、その職務を行うために旅行したときは、費用弁償として本協議会職員の例により旅費を支給する。

第6条 常務理事に対する、報酬、手当及び旅費の支給方法は、本協議会職員の例による。

第7条 この規程の施行について必要な事項は、会長が理事の決議を経て定める。

附 則

1 （略）

2 （略）

3 この規程は、平成29年5月__日（総会議決日）から施行する。

第4号議案 役員の選任について

○ 役員の一部変更について

役職名	所 属	新役員	旧役員
理 事	(株)ニコン相模原製作所	西持田 茂	山口 直行
理 事	新 日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所 旧 日立オートモティブシステムズ(株)相模事業所	井上 孝芳	杉崎 健司
理 事	三菱ケミカル(株)平塚事業所	須藤 忠司	鈴木 功
理 事	富士ゼロックス(株)竹松事業所	江口 敦彦	岡田 充宏

○ 変更後の役員名簿

役職名	所 属	氏 名
代表理事会長	日産自動車(株)追浜工場	高橋 徹
代表理事副会長	富士フイルム(株)神奈川工場	金武 哲史
代表理事副会長	(株)さんこうどう	川上 彰久
常務理事	(公社)神奈川県環境保全協議会	塩谷 映雄
理 事	(株)岡村製作所生産本部追浜事業所	加藤 達也
理 事	三菱電機(株)鎌倉製作所	金子 勇
理 事	中外製薬(株)鎌倉事業所	加藤 政裕
理 事	アマノ(株)相模原事業所	菊地原秀光
理 事	アンリツ(株)	高杉 和宏
理 事	ソニー(株)厚木テクノロジーセンター	加賀谷 努
理 事	東芝機械(株)相模工場	渡邊 浩司
理 事	トピー工業(株)綾瀬製造所	村田 啓
理 事	(株)ニコン相模原製作所	西持田 茂
理 事	日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所	井上 孝芳
理 事	いすゞ自動車(株)藤沢工場	山田 慶造
理 事	市光工業(株)ライティング事業本部伊勢原製造所	小島 利春
理 事	関西ペイント(株)平塚事業所	佐藤 裕稔
理 事	JX金属(株)倉見工場	稲田 秀樹
理 事	日産車体(株)	村上 安英
理 事	(株)日立製作所ITプロダクツ統括本部	高橋 毅
理 事	三菱ケミカル(株)平塚事業所	須藤 忠司
理 事	田中貴金属工業(株)化学回収カンパニー湘南工場	伊賀 祐人
理 事	花王(株)小田原サービスセンター	板谷 行生
理 事	クボタケミックス(株)小田原工場	南場 徹也
理 事	富士ゼロックス(株)竹松事業所	江口 敦彦
理 事	三菱ケミカルハイテクニカ(株)小田原テクノセンター	高橋 文夫
監 事	味の素(株)川崎事業所	古川 隆
監 事	(株)旭商会	根本 敏子

微小粒子状物質（PM2.5）に関する研究について

神奈川県環境科学センター 調査研究部

1 はじめに

微小粒子状物質（PM2.5）は粒径が小さく肺の奥深くまで入りやすいことから人の健康に影響を及ぼす恐れが懸念され、平成21年9月に環境基準が設定されました（図1）。神奈川県は平成23年度から質量濃度のモニタリングを開始し、翌24年度からは環境科学センターにおいて県内の汚染状況の把握やPM2.5の発生源の把握を目指した研究を行ってきました。本稿では、当センターの研究成果をご紹介します。

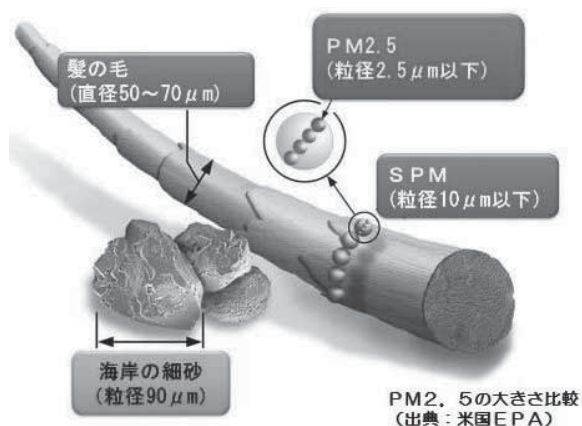


図1 PM2.5の粒径について¹⁾

2 PM2.5の構成成分について

環境科学センターでは大和市役所測定局（以下、大和）や山間地の西丹沢に設置した犬越路測定局（以下、犬越路）などでPM2.5を採取し粒子に含まれる成分の分析を行っています（図2）。分析の結果、主要な成分は硫酸イオン、炭素成分（有機炭素、元素状炭素）、硝酸イオン、アンモニウムイオンであり、これらの成分で質量濃度全体の6～8割を占めることが明らかとなりました（図3）。また、成分の構成比は地点によって異なり、例えば硝酸イオンは大和では約1割を占めていますが、犬越路では2%に過ぎず、山間地まで到達していないことなどが確認されました。



図2 炭素成分の分析

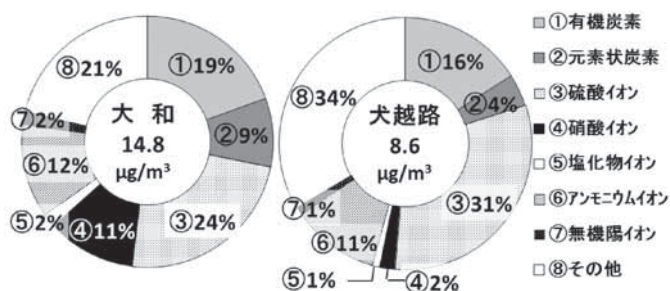


図3 地点別の成分構成比（平成23～25年度の平均）

3 PM2.5の発生源について

PM2.5の発生源は多岐にわたり、工場など固定発生源の他にも自動車や船舶などの移動発生源や植物、火山といった自然由来のものも知られています。また、PM2.5には発生源から大気中に直接放出される粒子（一次粒子）と大気中に放出されたガス状物質が光やオゾンの影響を受けて

粒子となる（二次粒子）ものがあり、生成メカニズムは複雑で、県内で観測されるPM2.5の発生源を明らかにすることは難しい状況にありました（図4）。

そこで環境科学センターでは成分分析結果に基づいて発生源を推定するレセプターモデルや気象や排出量データから発生源を推定するシミュレーションモデルを活用した解析を行っています。ここでは、両モデルを用いた解析結果を紹介します。

レセプターモデルのひとつであるPMF（Positive Matrix Factorization）法を用いた解析から、県内のPM2.5の主な発生源は石炭燃焼を含む硫酸塩であり、犬越路でも同程度の寄与を示すことがわかりました（図5）。

一方で、重油燃焼由来の硫酸塩や道路交通・工業起源の粒子は犬越路への寄与が小さく、主に都市部にみられる地域汚染である可能性が高いことが明らかとなりました。

また、シミュレーションモデルを用いた解析から、県内のPM2.5の約6割は関東域内の発生源の影響を受けていると推測されました（図6）。成分によって発源地域の影響は異なり、硫酸イオンは関東域外の寄与割合が8割近くを占めていますが、硝酸イオンや元素状炭素は関東域内の寄与割合が9割以上と推計されました。

これらの結果から、県内のPM2.5の低減策を検討するうえで地域的な対策と広域的な対策の両面を考慮することが必要であることが示されました。特に、硝酸イオンは関東域の影響が大きい結果が得られており、引き続きNO_x低減対策への皆様のご協力をお願いいたします。

現在、解析精度の向上を目指した取り組みを進めており、今後とも皆様への情報提供と対策の検討に向けた調査研究の推進に努めてまいります。

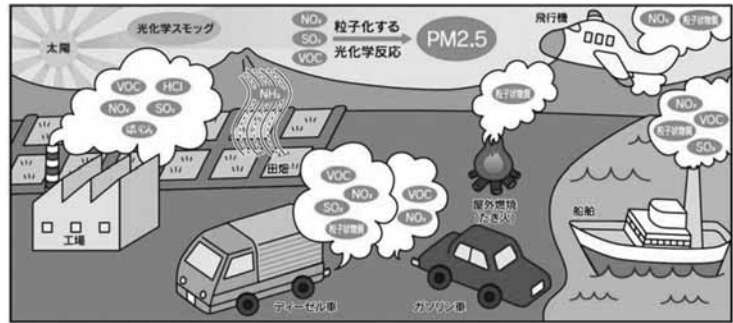


図4 PM2.5生成のしくみ¹⁾

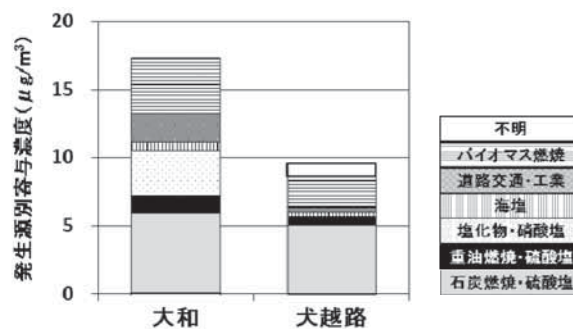


図5 レセプターモデルによる発生源(種類別)の推計濃度^{注1)}

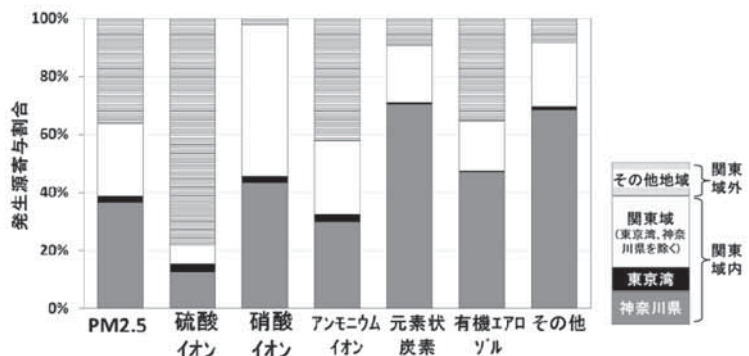


図6 シミュレーションモデルによる発生源(地域別)の割合^{注2)}

注1：解析対象期間は平成25年度

注2：解析対象期間は平成25年、地点は大和、有機エアロゾルは概ね有機炭素（成分分析結果図3）の1.6倍に相当

参考1) <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f470290/p656379.html> (2017.3.15アクセス)

廃棄物に新しい価値を付加する、反応熱を利用した発電技術 「IONIC POWER GENERATION」

■ 会社概要

ミヤマ株式会社は「日本一の総合環境企業」を企業理念に掲げ、より良い環境の創出に向け、あらゆる分野で技術開発、サービスの提供を行っています。創業時から中核的な事業として展開している「産業廃棄物処理」では、廃棄物の特性に合わせて異なる機能を持つ4つの工場で最適なりサイクル・中間処理をご提案しています。

【中野工場】

焼却、破砕処理を中心とし、有害物質の付着した廃プラスチックや金属類、反応性の高い化学物質の処理等を行っています。

【上越工場】

廃酸、廃アルカリ等の無害化、再資源化を行っています。加水分解物の処理を得意とし、液中からの貴金属回収や廃棄物を原料とした工業薬品等の化学製品を製造しています。

【分水工場】

汚泥やばいじん等を対象とし、有害物質の不溶化や金属原料等への再資源化を行うほか、化学物質が付着した工場設備等の洗浄・破砕・解体処理による再資源化に取り組んでいます。

【燕工場】

廃酸、廃アルカリ等の無害化のほか、廃棄物を原料とした化学製品の製造、処理時に発生する反応熱を利用した発電など、これまでにない廃棄物資源化の形を追及しています。

■ 技術概要

2014年より燕工場で稼働している「IONIC POWER GENERATION」(以下IPGという)は、中和や溶解、酸化、還元などの化学反応時に発生する「熱」を利用するこれまでにない発電技術です。化学反応を緻密にコントロールすることで、70～90という低温域の「熱」を最大限利用し、エネルギーへと変換しています。

燕工場では硝酸系廃液を原料として発電を行っていますが、この工程は太陽熱発電の蓄熱媒体やガラス光沢剤の原料となる工業薬品の製造工程にもなっており、廃棄物に「エネルギー」と「マテリアル」の両面から新しい価値を付加しています。



保管タンクに廃液を貯槽
反応槽に廃液を移送し、薬剤を添加することで反応熱を発生させて規定温度まで昇温
高温の反応液を循環して熱交換器1で温水を製造し、バイナリー発電機に供給して発電
発電可能温度を下回った反応終了液は熱交換器2で次の処理液に熱を受け渡し、受槽に移送

反応熱エネルギー（イオニックパワー）は 廃棄物に秘められたもう一つの資源

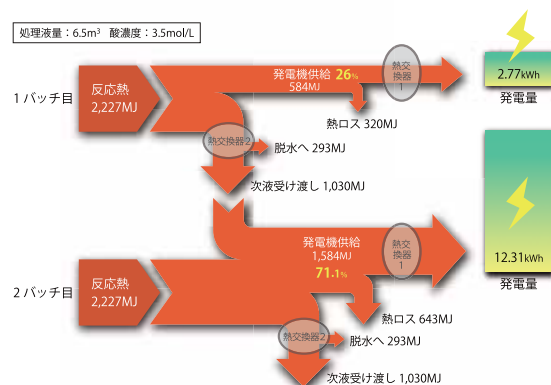
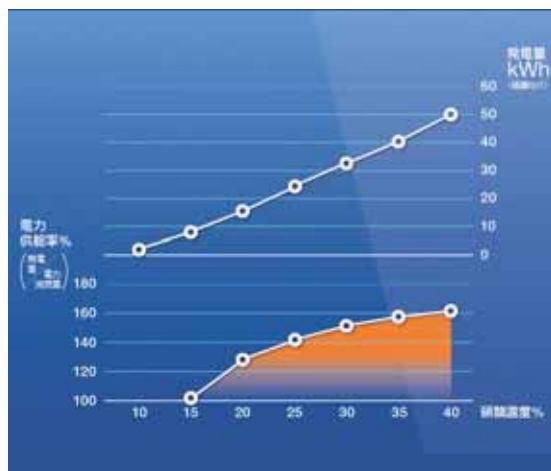
反応熱とはイオン化やイオン結合等、物質の形態変化に伴う内部エネルギーの放出（エンタルピーの変化）です。これまで見過ごされてきたこの熱に着目し、いかに効率的に取り出すか。これまでとは逆のアプローチで生まれた発電技術です。

熱→電気へ 汎用性の高いエネルギーに変換

回収した熱はバイナリー発電を利用して、電気へと変換します。燕工場でのIPGによる発電量は、1日に最大200KWh。化学反応を制御することで、通常では困難な低濃度液からの発電も可能にしています。

連続バッチ処理でエネルギーを循環利用

本装置の発電可能温度75℃を下回った反応終了液も有効に利用する為、連続バッチ処理を行い、1バッチ目の反応終了液から2バッチ目の処理液へと熱交換を行い、2バッチ目の処理液のベース温度を20℃から60℃へと上げることで発電効率を向上させています。これにより、1バッチ目の反応終了液は最終的に35℃以下となり、発電可能温度を下回る低温域の熱エネルギーも無駄なく回収することに成功しています。



【反応槽】

槽内に設置した複数のセンサーで液の状態をモニタリングし、薬剤投入量等を常に最適化しています。



【熱交換器】

反応槽から送られる液の熱を発電機側に受け渡します。もう一方の熱交換器では、次に処理する廃液の予熱を行います。



【発電量モニター】

IPGでの発電量はリアルタイムでモニタリングでき、PCを介して遠隔での確認も可能です。

今後の展望

燕工場のIPGは硝酸系廃液を原料に発電を行っていますが、対象廃液の拡大に向け研究・開発を進めています。そして将来的には全国で年間約460万t 排出されている廃酸、廃アルカリ全てをエネルギー資源へと転換していきたいと考えています。

環境省：産業廃棄物の排出および処理状況（平成23年度実績）



総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社／長野市稲里一丁目5番地3 TEL.026-285-4166(代)
横浜営業所／横浜市中区住吉町2丁目24番地2 住吉24ビル702号
TEL.045-210-0150 FAX.045-210-0151
E-mailアドレス／yokohama_branch@miyama.net

平成28年度 環境保全視察研究会に参加して

東ソー(株)東京研究センター 新 妻 更太郎

2月24日、晴れの予報は完全に外れ、どんよりとした曇り空、本厚木駅前に集合した環境保全視察研究会参加メンバーは、本日最初の視察場所である株式会社リコー環境事業開発センター様に向けて出発しました。出発直前まで東名高速が通行止めになっており迂回路等の検討もしましたが、通行止め解除後の道路は渋滞もなく至って順調に目的地に到着しました。



静岡県御殿場市にあるリコー環境事業開発センターは1985年御殿場工場として設立し、コピー機、プリンターの生産を開始、2013年に生産拠点をタイにシフトした関係で閉鎖、2年間の放置の後再生し設立されました。センターでは、創る・続ける・魅せるの3つの機能に分け、環境関連事業創出の拠点として産・官・学との連携、徹底したリユース・リサイクル、環境コミュニケーションへの様々な取り組みを行い、公開しています。会議室で

の概要説明の後、間伐材を用いたボイラー、マイクロ水力発電、コピー機のリサイクル工場等を見学させて頂き大変参考になりました。このセンターでは約800名の方が働き、年間4000名の見学者を受け入れているそうで、今後も積極的に公開していくそうです。コピー機のリサイクルでは、年間8万台を受入れ2万台をリサイクル機として再出荷、残りは部品、部材毎にリサイクルしているとの事でその徹底ぶりは圧巻でした。



三島市内に移動し昼食を頂いた後に、本日2か所目の視察場所である駿東郡清水町にある柿田川湧群に移動し、専門のガイドの方の説明で湧水群内に整備された公園を散策しました。かつては豊富な湧水を求めて工場が進出、排水のたれ流しにより水質が悪化し、魚も住めない状態であったところを、1980年代には地元有志によるナショナルトラスト運動が始まり、工場の移転運動や清掃活動が行われ、カワセミなども生息する環境が残されました。現在もトラスト地の買い上げは、訪問者の寄付によって続けられているそうです。かつての工場の名残である取水口跡から綺麗な湧き水が砂を巻き上げている様子を見ると人工物と自然が一体化した宮崎アニメの「天空の城ラピュタ」の一場面を思い出しました。

今回、最先端の環境事業開発の拠点と地道なナショナルトラスト活動の成果を視察する事が出来て非常に感慨深い物が有りました。

最後になりましたが、今回の視察研究会を企画、準備して頂いた環境保全協議会事務局の塩谷様、山崎様、大変お疲れ様でした。

今後も有意義な環境保全研究会を継続して頂きたくお願い致します。ご一緒させて頂きました会員の皆様ありがとうございました。

自噴する湧水



会員事業所訪問 28 お元気ですか？



今回は中井町の事業所です！

大東力カオ株式会社 中井工場

協議会事務局 山 崎 美 紀



工場外観

大東力カオ株式会社は大正13年「竹内商店」の名前で開業、昭和37年に現在の商号に改称されています。工場は、中井町北部の工業団地「グリーンテクなかい」の一角に位置し、平成3年に操業開始、当協議会には操業後間もなくご入会いただきました。主な製品は、チョコレート原料の「カカオマス」、「ココアバター」、「ココアパウダー」、そして「製菓用チョコレート」です。左下の写真はカカオ豆 カカオニブ



カカオ

(豆を砕いてチップ状にしたもの) カカオマス (ニブをすり潰し液状化したもの) ココアバター ココアパウダーとなっており、全てカカオ豆から抽出されます。

左の丸写真がカカオの実になりますが、実の中の白い果肉に包まれているのがカカオ豆です。摘み取り後、天日で十分発酵、乾燥させてから出荷となります。いよいよチョコ

レート原料となり各国に輸出されるのです。工場の製造工程は一次、二次工程とあり、カカオニブから最終的にココアパウダー、ココアバター、カカオマスを製造するのが一次工程。製造されたそれぞれに糖類や粉乳、植物油脂を加えて混合し、出来上がるのがいわゆるチョコレートになります。こちらが二次工程となります。

当工場はカカオ豆からの一貫製造を行っており、厳しい品質管理と環境に配慮した設備で24時間稼働しています。生産のピークは秋から冬、クリスマスからバレンタインのシーズンにかけてだそうです。伺うところによると製造工程で重要なのはロースト(焙煎) だそうで、豆の特性に合った温度と時間管理が肝になるとのこと。

産地によって豆の個性も違うため、例えば香りの高いもの、苦みや渋みのあるものなど、それぞれを微妙にブレンドすることがノウハウだそうです。コーヒー豆と共通項があるように思いました。全世界的に投機目的でカカオ豆の価格が高騰するなどもあるようですが、チョコレート需要は年々増加傾向だそうです。確かに、本当に多種多様なチョコレート製品があります。生産された原料は主に製菓メーカーなどに納品されますが、用途はドリンクであったりパンなどであったりと様々です。なお、残念ながら原料メーカーなので大東力カオの名前では流通していないとのことです。



出荷製品の一部

環境活動については、環境管理体制として3年前にエコアクション21を認証取得。エネルギー使用量の多い当工場が率先して、目標値や施策の策定、関係法令の洗い出し、遵法状況の確認を実施するなどし、全社的な認証につなげていったそうです。CO₂削減活動としては、ボイラー燃料の都市ガス化、老朽施設の順次更新による効率化と規制フロンからの冷媒転換、使用水については、上水を主に冷却水や洗浄水として200t/日(量)使用しており、排水は2013年度に下水道放流に切り替えました。工場から出る廃棄物は5割強が廃チョコレートで300~400t/年間、殆ど肥料として活用しています。

原料の豆が入った麻袋が多量に発生するそうですが近隣農家に無償で提供するなど、地域特性に合わせた削減活動にも努められています。勿論、廃チョコレート削減には歩留まりをよくする活動が不可欠ですので、日々改善活動を積極的に続けているそうです。地域活動としては、近隣住民と一体となり「中井の環境をよくする会」のメンバーとして、周辺の環境活動にも社員から参加者を募り、積極的に参加。毎年「美緑(みりょく)中井フェスティバル」などにブースを設けて、参加者へPRを働き掛けているとのことでした。甘い香りに包まれての訪問になりましたが、あらためて品質管理の難しさ、ご苦労を感じ、これからも大好きなチョコレートが美味しく食べられることを願う工場見学となりました。

—掲載内容についてのお問合せ先—
大東力カオ株式会社 中井工場
管理部 総務環境保安課
主任 笹生 一利
電話 (0465) 81 - 4515

協議会の活動状況

1 会員の状況 平成29年3月31日現在

区 分	正 会 員	賛助会員	計
前回までの計	2 9 0	2 1	3 1 1
新 入 会 員	2	0	2
退 会 会 員	3	1	4
計	2 8 9	2 0	3 0 9

○新入会員（平成28年12月1日～平成29年3月31日） 2社

No	事業所名	業務内容	所在地	代表者名	電 話
1	(株)アクアパルス	環境計量証明事業	横浜市金沢区福浦2-11-7	代表取締役 増田 健一	(045)788 - 5101
2	サガミ計測(株)	環境計測機器販売・メンテナンス	相模原市南区下溝1892-1	代表取締役 蒔田 建	(042)778 - 3646

○退会会員 4社（H29.3月末現在）

2 平成28年度環境実務後継者育成講座

日 時：平成29年1月24日(火) 9:30～16:30

会 場：万国橋会議センター

内 容：(1) 環境法令の理解、環境法令の読み方



(2) 公害関係法令の規制概要と事業者の責務等について

(3) 廃棄物処理の基礎知識について

(4) 環境管理の重要性と管理のあり方について

(5) 質疑応答

参加者：35名

5 平成28年度環境保全視察研究会（P16参照）

日 時：平成29年2月24日(金)

視察先：(株)リコー 環境事業開発センター、柿田川湧水群

参加者：23名

6 平成28年度第2回企画教育委員会

日 時：平成29年3月1日(水) 15:00～17:00

会 場：横浜市開港記念会館

内 容：(1) 平成28年度の教育事業進捗状況及び今後の事業予定について

(2) 平成29年度事業計画案について

(3) その他

3 平成28年度地区部会役員会議

【県央地区】

日 時：平成29年2月7日(火) 14:00～17:00

会 場：アンリツ(株)

内 容：以下全地区共通

(1) 平成29年度事業計画(地区部会関連について)

(2) 会長・県センター所長表彰候補者推薦について

(3) その他

【横須賀・鎌倉地区】

日 時：平成29年2月9日(木) 14:00～17:00

会 場：東邦化学工業(株)追浜工場

【県西地区】

日 時：平成29年2月10日(金) 14:30～17:00

会 場：わかもと製薬工業(株)相模大井工場

【湘南地区】

日 時：平成29年2月17日(金) 14:00～17:00

会 場：関西ペイント(株)平塚事業所

4 平成28年度排出事業者及び神環協との懇話会

日 時：平成29年2月17日(金) 14:00～16:45

会 場：平塚商工会議所

内 容：(1) 「廃棄物行政の動向 - 法律に基づく排出事業者処理事業者それぞれの役割等 - 」

(2) 「最近の不適正事例にみる排出者責任とは」

(3) 質疑応答

参加者：84名



7 平成28年度第2回総務委員会

日 時：平成29年3月13日(月) 13:30～14:30

会 場：万国橋会議センター

内 容：(1) 平成29年度環境保全表彰等被表彰者の選考について

(2) 平成28年度第2回通常理事会及び第5回定時総会開催について

(3) その他

8 平成28年度第2回通常理事会

日 時：平成29年3月13日(月) 15:00～17:00

会 場：万国橋会議センター

内 容：議事

(1) 新入会員の承認について

(2) 役員の変更について

(3) 平成28年度事業報告(見込み案)について

(4) 平成28年度収支決算報告(見込み案)について

(5) 平成29年度事業計画案について

(6) 平成29年度収支予算について

(7) 公益社団法人神奈川県環境保全協議会役員等の報酬等に関する規程の改訂について

(8) 平成29年度環境保全表彰(会長表彰)について

報告事項

(1) 平成29年度 神奈川県地域県政総合センター所長表彰等の推薦について

(2) 第5回定時総会の開催について

(3) その他

平成29年度 公益社団法人神奈川県環境保全協議会環境保全表彰

受 賞 者 名 (所 属)	所 在 地	功 績 の 概 要
(株)岡村製作所 生産本部 追浜事業所	横須賀市	1997年にISO14001認証を取得、以降、環境方針の達成に向けて、環境実施計画などに基づく取組みを着実に進めている。環境負荷低減のため、高濃度脱脂排水を除害施設で処理後に放流、また、水溶性接着剤利用による化学物質削減対策にも取り組んできた。
大森 敬司 (日産自動車(株)追浜工場)	横須賀市	1991年に追浜工場に赴任以降、公害防止管理者をはじめとする環境管理業務に携わり、その間、水質改善、廃棄物削減のための設備改善に力を発揮した。また、会長事業所の窓口担当者としても調整力を発揮し、協議会事業の円滑推進に大きく貢献してきた。
(株)タズミ	綾瀬市	2007年にエコアクション21の認証登録、マネージャー会議を毎月開催し、社長自らが目標達成状況の確認を行うなど、適切に進捗管理が行われている。廃棄物の燃料化事業でも数値目標を設定した管理が行われ、その結果も積極的に公表している。
高杉 和宏 (アンリツ(株))	厚木市	1980年に入社、以降、公害防止管理者や化学物質管理責任者として環境保全業務の円滑推進に貢献してきた。また、当協議会理事として12年間、さらに、地域活動における功績も認められ、2015年には県央地域県政総合センター所長表彰も受賞している。
高圧ガス工業(株) 神奈川工場	平塚市	グループの基本指針である「環境問題への取組みの必要性を認識し、自主的、積極的に行動する」を受け、廃棄物の再資源化などを進めている。高圧ガスの保安のため、消費者や販売代理店に対する教育にも力を注ぎ、広く、高圧ガスの事故防止活動に努めている。
(株)ミクニ 小田原事業所	小田原市	2004年にISO14001認証を取得、以降、環境方針の達成に向けた取組みを着実に進めている。自動車・二輪車の排ガス浄化や燃費改善のため、長年培った技術を駆使して、制御の高度化、高性能化、軽量化などに取り組んでいる。
花 王 (株) 小田原事業場	小田原市	1998年にISO14001の認証を取得、原材料の調達から廃棄までの段階で、省エネ目標など設定し、事業活動と環境保全の両立を目指した活動を進めている。具体的には、設計段階から、ライフスタイル全体を考慮して、環境負荷の少ない商品開発なども行っている。



わがお国自慢 ～神奈川県横浜市編～



私の生まれ育った横浜の思い出の場所、エリアをご紹介します。横浜の街、港のシンボルといえば横浜マリンタワー。ホテルニューグランドなど歴史的建造物と隣り合って、横浜の景観には欠かせない美しいタワーです。

マリンタワーは灯台としての機能を持っているため、「どここの角度からでも同じ形に見える」との理由から10角形という珍しい形が採用されました。マリンタワーといえばやはり地上94mの30階展望フロア。中でもらえる円形のマップを頼りに横浜の街を見下ろすことができます。お勧めは夕焼けと夜景が楽しめる時間帯です。4階には地産の食材を取り入れ、厳選された素材を活かした洋食を提供するレストランもあります。メニューをオーダーした後は、まずは日本の港町の中で一番おいしい横浜の水を味わい下さい。



横浜の代表する名跡は三溪園。三溪園は、敷地面積18万平方メートルの広大な日本庭園です。敷地には京都や鎌倉などから集められた歴史的建造物17棟が自然豊かな園内にたくみに配置されています。園内にある臨春閣や旧燈明寺三重塔など10棟は、重要文化財に指定されています。街なかにながら小旅行気分が味わえます。梅や桜、ツツジ、紅葉などの名所としても知られ、創設者の原三溪がと

りわけ好んだ花がハス。三溪園では開花時期に合わせ、早朝6時に開園。すがすがしい朝の空気の中、咲いたばかりの美しいハスの花が楽しめます。またハス茎の糸取りやお面作りも体験できます。

横浜の数ある下町商店街のひとつ弘明寺商店街。ここから大岡川沿いに続く桜並木は壮観です。ライトアップもされ屋台も多く並びます。下町グルメを堪能したいところですが、ほどほどにして野毛を目指しましょう。かつて、野毛にいけば何でも揃うと言われた時代がありました。人情に厚く親しみやすさが売りのこの街は、個性的な飲食店を中心に、多種多様な店が軒を並べ、おなじみの大道芸イベントをはじめ、独自の文化が息づいています。



(記 花王(株)小田原事業場 板谷行生)

広報委員会

委員長 (株)日立製作所ICT事業統括本部
副委員長 市光工業(株)伊勢原製造所
委員 (株)さんこうどう
委員 富士フイルム(株)神奈川工場
委員 三菱ケミカル(株)平塚事業所

委員 (株)岡村製作所追浜事業所
委員 ソニー(株)厚木テクノロジーセンター
委員 (株)ニコン相模原製作所
委員 J X 金属(株)倉見工場
委員 三菱ケミカルハイテクニカ(株)小田原テクノセンター

✉ 事務局だより ✉

会員の皆様には日頃から“しんかんきょう”をご覧いただきありがとうございます。総会特別号として発行いたしました139号ですが、平成28年度事業実施報告、決算報告、新役員名簿、また平成29年度環境保全表彰の受賞企業様のご紹介やシリーズものの新技術紹介、会員訪問記など掲載しております。皆様に気軽にお読みいただけるようなコンパクトな内容を心掛け、編集しておりますので、今後も引き続き、会報誌“しんかんきょう”をご愛読くださいますようお願い申し上げます。

会報 しんかんきょう139号

発行年月日 平成29年4月
発行人兼 公益社団法人神奈川県環境保全協議会
編集責任者 会長 高橋 徹
横浜市中区日本大通1
(神奈川県環境農政局内)
電話 (045) 210-8727
E-mail: shinkankyoku@eagle.ocn.ne.jp
ホームページ: <http://www.shinkankyoku.or.jp>
編集協力 (株)さんこうどう(<http://www.sankodo.net>)
製作・印刷 電話 (0466) 27-2511

CLEAN PRODUCTS.®

www.miyama.net

皆様と共に未来を育むため
ミヤマは環境のフィールドで
新たなチャレンジを続けてまいります。

ミヤマシジミ

絶滅危惧IB類に分類され雄雌ともに、
翅裏には橙色と小さな青い紋の列があるのが特徴。
私たちは、この蝶の保護活動を通じ、
生物多様性の保全に取り組んでいます。



総合環境企業

ミヤマ株式会社

本社／長野市稲里一丁目5番地3 TEL.026-285-4166(代)
横浜営業所／横浜市中区住吉町2丁目24番地2 住吉24ビル702号
TEL.045-210-0150 FAX.045-210-0151
E-mailアドレス／yokohama_branch@miyama.net



みなさまの 健康づくりを 応援します

禁煙・メタボ対策等、健康教育を実施したい

社員のための健康イベントを開催したい

こんな企画事例もございます。



MENU

講師の派遣

- 栄養・食事指導
- 禁煙・卒煙教室
- 運動・腰痛予防
- 心のケア・ストレス解消法

1回の派遣
2時間以内
32,400円

健康度測定

- | | |
|-----------|---------|
| ■ 骨密度測定 | 86,400円 |
| ■ 足型・足圧測定 | 54,000円 |
| ■ 血管年齢測定 | 43,200円 |
| ■ 肺年齢測定 | 32,400円 |

※上記について、詳細はお問い合わせください
ご相談・お見積りは無料です



おかげさまで
26周年

明るく元気な明日のために
かながわ健康財団

〒231-0037横浜市中区富士見町3-1神奈川県総合医療会館5階
営業時間9時～17時 休業日/土日祝

ご用命・お問合せはこちら

☎ 045-243-5021

<http://www.khf.or.jp>

かながわ健康財団

検索